

●● 校訓 (より正しく・より豊かに・よりたくましく) ●●

令和8年度 帯広市立帯広小学校 学校便り

# 帯小の窓

開校 130 年の歴史と伝統の上に立つ これまでも これからも

NO. 13 令和8年7月14日 発行 校長 黒島 俊一

## かけがえのない命の大切さ

今回も童謡から。作詞家の野口雨情の歌は「七つの子」「赤い靴」「兎(うさぎ)のダンス」などでも知られ、今でも歌い継がれている曲がたくさんあります。その中の一つ、「シャボン玉」の話です。歌詞は、「シャボン玉飛んだ 屋根まで飛んだ 屋根まで飛んで こわれて消えた」と誰もがよく知るものですが、その背景を知ると少し聞こえ方が変わってきます。

野口雨情は27歳の時に、初めて女の赤ちゃんを授かったのですが、生まれて8日目で亡くなってしまいました。その時の悲しみを歌に表したのがこの「シャボン玉」なのだそうです。

「シャボン玉消えた 飛ばずに消えた 生まれてすぐに こわれて消えた」

シャボン玉は生き物ではありませんが、せっかく生まれたのに、すぐに亡くなってしまった我が子の命をシャボン玉に重ね、いつまでもいてほしかった我が子の命が消えてしまった、親の悲しみが込められていることが重く感じられます。

目には見えませんが、本校に通う子供たちにも、受け継がれてきた大切なかけがえのない命があります。この命を大切に、学校は子供の命を守る、安心安全に学べる場所でないけません。

学期末を迎え、今一度、一人一人が自立した将来に向けて輝くような、通いやすいと学びがいのある学校生活をさせたいと思うと同時に、自他ともに命を大切に、そして人を大切にするから自分も大切にできる気持ちの育みを大切にしたいのです。

修学旅行の意義は、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展につながる体験的な活動を進める中、宿泊など平素と異なる環境の中で見聞を広め、自然文化に親しみ、集団生活のあり方や公衆道徳について実践的に学ぶことです。

本校の修学旅行もこうしたねらいのもと、事前準備としての事前学習等も念入りに進め、7月8日～9日の日程で札幌方面に行き参りました。

少し前までは「コロナ禍」で、全員マスク着用、バイキングも手指消毒と手袋、みんなで同じ方向を向いて食べるなど、万全な感染対策で実施したあの頃とは隔世の感があります。そうした感染に対する緊張感なくとも、大旅行での安全指導、事故急病等、最悪の状況も想定しながら危機管理に努めることに変わりはありません。幸い大きな事故もなく、元気に帰ってくるころができました。帰校後の解散式で私からはみんなが①仲良しな雰囲気が高まったこと。②ほどよい「はしゃぎ」と「ルール」のバランスがとれた旅行だったこと。③心と体にしっかり汗をかいて楽しんだこと。がうれしかったことを伝えました。

いつかは親元を離れていくお子さんですが、たった一晩ではありましたが、親元から離れたところでの宿泊は、親子の関係を深めるきっかけにもなったものと思います。帰校した際のバスの中からは、出迎えに来てくれた保護者のみなさんが、我が子のことを指さしながら安心している表情も見られ、帰りを待ちわびていた親の愛、親子の絆を感じさせられました。

この後、修学旅行の体験をグループごとにふりかえり、まとめて改めて発表・報告することになります、お楽しみにされています。

～ 新・学校教育目標 ～  
夢をもち みんなで高め合い  
未来をひらく 帯小っ子

- おおきな心で
- びしっと学び
- ひろがる仲間と
- しっかり行こう
- よい笑顔の
- うきうき帯小っ子

(令和8年4月1日制定)



安心安全で楽しい  
修学旅行に  
行ってきました



## 7月15日は開校記念日 帯広小学校130回目の誕生日です

本校は明治29年（1896年）の開校から今年で130年を迎え、明日7月15日（水）は開校記念日（休校）になります。130歳の誕生日、おめでとうございます。

開校120周年記念誌「花天緑樹」（かてんりょくじゅ）をひも解くと、当時校長だった久永恵子氏（第31代校長）は、『学校を建てるということは、この地の未来を教育にかけ、定住を決意した開拓団の象徴となります。（中略）帯広小学校の歴史は帯広教育史そのものであり、（中略）ただ歴史の古い学校だから伝統校なのではなく、この120年間、歴代の諸先生方が常に時代の変化や要請、教育的課題を的確にとらえ、その解決に普段の努力や創造的な営みがあったからこそ、今なお、ほかに誇れる輝かしい伝統と校風が築かれてきたのだと思います。』と語られています。

あれから10年。これまで本校を巣立った卒業生は、令和8年3月までの129年で実に20539名を数えます。開校から明治、大正、昭和、平成、そして令和へと時代は進み、帯広の開拓の歴史とともに歩んできた本校は、四世代目から五世代目にわたる入学児童を迎えるほどの輝かしい歴史と伝統、長い年月を重ねてきました。これからも帯広市と帯広の教育を担う本校が、子供たちの自立と輝かしい未来に向け、家庭、地域と学校が一体となって、「夢をもち みんなで高め合い 未来をひらく 帯小っ子」を目指す学校づくりに向け引き続き努力して参ります。

今後とも、伝統を引き継ぎ、地域に信頼される学校として、より充実した教育活動と安心して学べる環境づくりに向けて、変わらぬみなさまからの熱いご支援、ご協力と厚い信頼をもってお支えいただきますようお願いいたします。

なお、この時期恒例ではありますが、3階南の「資料室」を開放しています。帯広小学校開校からの歴史ある数々の品々、パネル、写真が数多く収められています。ご都合がつかましたら、ぜひ足をお運び、ご覧になられて下さい（～7月17日（金）迄）



本校は毎年9月に教育研究発表会を開催しています。市内・管内の多くの教職員の参観のもと、本校の全学級の授業を公開し、十勝教育局・帯広市教委の指導助言も受けながら授業力向上に努めています。

昨年度からは2年間、道教委の「学校力向上総合実践事業の指定」を受け、プラス教員として算数・理科の専科、加えて事業とは別に体育の専科もいただいています。

本日14日（火）は、9月の教育研究発表会の前段の研究会として、指定事業公開として3年理科と6年体育に特化した授業を行いました。様子は後日紹介いたします（保護者参観は行いませんでした）。

（写真上から、帯広小学校初代から現在までの校舎全景）  
上から、①初代校舎(明治29年～) ②二代目校舎(明治36年～) ③改築校舎(昭和3年～)  
④改築校舎(昭和13年～) ⑤三代目校舎(昭和47年～) ⑥改築校舎(平成9年～)

## ふたたびの 学校評価アンケートの回答はもうお済みですか

学校通信13号でもお願いいたしましたが、上半期の学校の教育活動にかかわる「学校アンケート」の回答はお済みでしょうか。今年は出足が少しゆっくりのようで、ちょっと心配しております。学校教育目標の改定の年として、開校130周年節目の年としてぜひ貴重なお声を聞かせてください。右の二次元バーコードをスマホで読み取り、回答は1～2分程度です。よろしくお願いします

